

第2回
持続可能な航空燃料(SAF)の導入促進に向けた官民協議会
ご説明資料

2022年11月7日

国際競争力を有した国産SAFの安定供給の実現に向けて

1) 航空の現状

- 長引くコロナ禍において、国・政府からのご支援に加えて、各社自助努力を重ねて参りましたが、航空業界を支える経営基盤は大きく棄損しています。
- 本邦航空各社は我が国の重要な社会インフラとして、日本経済の成長に向け、財務基盤の立て直しと合わせ、成長・環境への投資を継続させてまいります。

<航空業界 経営基盤の変化（コロナ前後）>

財務状況	最終損益	約 2000億円 <small>(2017-2019年度平均)</small>	➡	約 1.1兆円赤字 <small>(2020-2021年度累計)</small>
	有利子負債	約 1.1兆円	➡	約 2.7兆円
	支払利息	約 80億円/年	➡	約 350億円/年

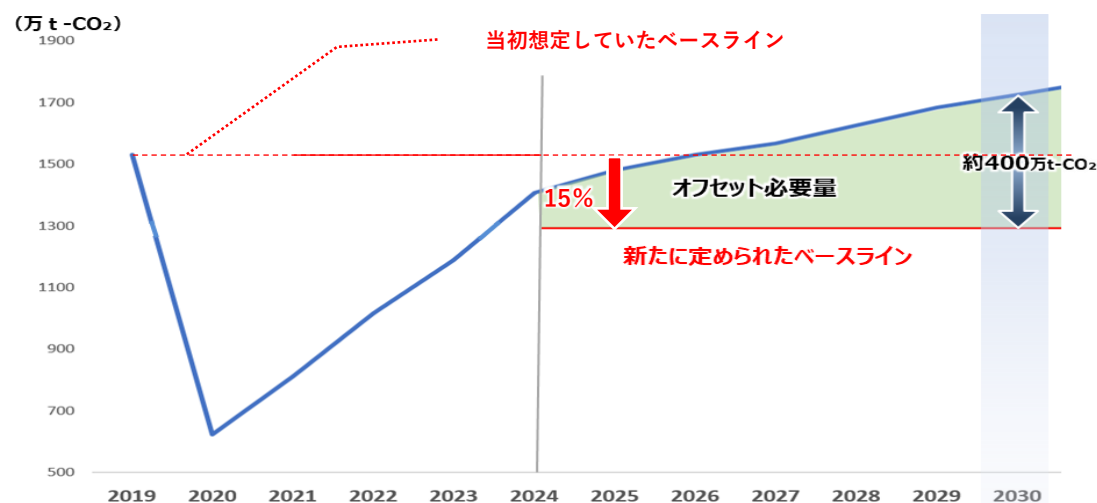
✓ 経営基盤の強化を急ぎ進めながら、成長・環境への投資、脱炭素化への対応を行っていく

国際競争力を有した国産SAFの安定供給の実現に向けて

2) 航空の脱炭素に向けた課題

- 10月に開催されたICAO総会において、2050年にネット・ゼロとする長期目標と合わせて、排出量削減スキームであるCORSIAにおける2035年までの目標水準を我々が当初想定していたものより**15%深掘り**する案が採択されました。
- 今回採択された新たな国際目標は、航空会社にとっては非常に高い目標となっており、**今後各国政府ならびに航空各社がこの高い目標に向けて、これまで以上にSAFの導入を図っていく**事が予想されます。

<CORSIA目標を達成するための本邦航空会社のカーボンオフセット必要量>
(定航協試算)



・運航方式の改善、新技術導入による削減を加味したICAOのGHG排出量予測から本邦航空会社分を試算

- ✓ 今現在、世界的にもSAFの供給量は圧倒的に不足している（世界全体で0.1%未満）
- ✓ 高い目標を達成すべく、各国政府および航空各社によるSAFの争奪戦が過熱していく可能性がある

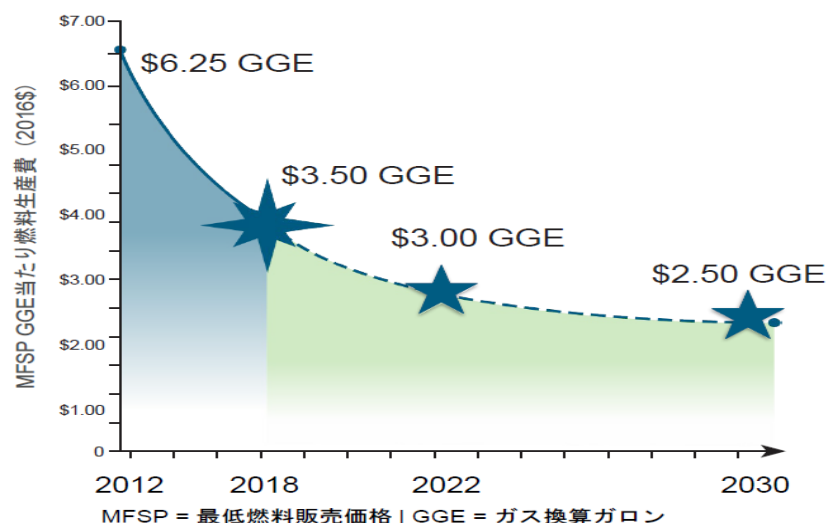
国際競争力を有した国産SAFの安定供給の実現に向けて

3) SAFに関する各国の動き

- 欧米においてはSAFの商用化に向けた動きが活発化しております。
- 米国では政府主導でSAFの量産化と価格低減に向けたロードマップが敷かれ、様々な政策的な支援が行われており、現行のジェット燃料と競争力のある価格を目指し、SAFの導入を促していくとされております。
- こうした諸外国のSAF確保に向けた動きを注視していく必要があります。

<米国におけるSAF価格低減目標（一例）>

出典：米国エネルギー省 エネルギー効率・再生可能エネルギー局| バイオエネルギー技術局



▼米エネルギー省資料より定航協にて試算

2018年時点 **リッターあたり133円**

※1ガロンあたり\$ 3.5を144円/ドルで算定

理論値での価格低減目標

2030年 **リッターあたり95円**

※1ガロンあたり\$ 2.5を144円/ドルで算定

→ジェット燃料市況 2022年10月現在 リッターあたり115円

国際競争力を有した国産SAFの安定供給の実現に向けて

4) 国産SAFの安定供給に向けて

- カーボンニュートラルを目指す世界の航空会社にとって、空港においてSAFが給油できるかは、今後就航地を選択するうえで重要な要素となります。
- 我が国の空港において、国際的にも競争力のある価格と品質のSAFを安定的に供給できる体制が構築できなければ海外の航空会社からも就航地として選択されず、日本発着の国際線ネットワークが著しく棄損する恐れがあります。
- 各国においては価格の低廉化にまで踏み込んだ議論、研究が進んでおります。こういった海外の動きも踏まえ、国際競争力を確保するための具体の議論を加速させていく必要があります。

価格、品質ともに国際競争力のある国産SAFの安定的な供給体制を構築していくために、供給・利用双方で課題を検証し、必要な手立てを検討していく必要がある